

# 市広帯 R&B、新年度に構想 農産物の機能性研究基礎に

帯広市は新年度、帯広版リサーチ・ビジネスパーク（R&B。産学官

連携による新産業創出事業）の構想づくりを行う。関係機関の専門家の意見を吸収して立案すると同時に、講演会などを通して構想に対する市民理解を深める。

道内では北大キャンパスに研究施設、道立試験機関を集積し、ベンチャービジネスの創出を目指す取り組みが進んでいる（北大R&B）。

道は類似事業を札幌以外の地方でも奨励しており、帯広では砂川敏市長が3期目公約に盛り込み、取り組みが始まった。

売り込み、事業化につなげるシステムをイメージしている。

今年度はR&Bの道内先進地視察を実施する。来年度は関係機関、アドバイザーから意見を聞いて構想を立案、構想を市民に周知するためパンフレットの作製や講演会の開催などを予定している。市は「構想は研究機関と企業をつなぐ機能として位置付けたい」と話している。

（能勢雄太郎）

十勝毎日新聞

2007年（平成19年） 2月 1日（第1面）

「都市エリア産学官連携促進事業」（文部科学省）の指定を受け、十勝圏振興機構などが進めている、農産物の機能性に関する研究成果や産業クラスターの取り組みを基礎とする。研究成果（シーズ）を管内外の企業に